

2012年 6月 30日発行

6月議会終了

20日の水曜日に6月議会が終了しました。本会議、常任委員会、議運(議会運営委員会)全協(全員協議会)、代表者会議と全ての会議に出席しているので、滅茶苦茶忙しい議会となりました。ついこの間までは一人ぼっちの、気ままなたかやんでしたが・・・会派の代表として、文教環境常任委員長として発言したり報告したりすることが多くなりました。気楽な独り者が、いきなり大家族の大黒柱になったような感じです(笑)。2218票の重さと新しい責任の重さを感じた6月議会でした。

委員長

文教環境常任委員会の委員長になり4ヶ月が過ぎようとしています。この委員会では「学務課長」「指導課長」「教育相談センター室長」「市民課長」「生涯学習課長」「市民安全課長」「学校教育部長」「教育長」「教育総務部長」「市民環境部長」「中央公民館長」「リサイクル推進課長」「スポーツ振興課長」と執行部の説明や答弁で手を挙げた人の名前を呼ばなくてははいけないのですが・・・ポヤっとしていると時々名前が出てこなかったり間違えたりすることがあります。今回の委員会でも「スポーツ振興課長」のことを「スポーツ推進課長!」と呼んでしまったアホな委員長でした。



最近、体を鍛えています。全てがテニスの試合の為なのですが・・・若い先生について、まるで高校時代の部活のようなメニューをこなしています。



初めて「たかやん塾」卒のカップルが誕生しました。結婚の報告に来た、太陽と祐の二人です。勿論、結婚式の歌とスピーチを頼まれました。今から楽しみです。

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。教育を語らせたら、止まらない男。都立石神井高校を経て北海道大学へ。新座五中・六中・二中で21年間を過ごす。2012年、2218票で当選。新しい会派「市民と語る会」を結成。文教環境常任委員長。「たかやん塾」塾長。「黒目川川づくり懇談会」代表として月に一度の川掃除に燃えている。子ども達の内部被爆を防ぐ為に「給食ゼロベクレル宣言」を訴えている。五・六中の男女硬式テニス部を率いて、関東大会5回、全国大会2回優勝。学級通信「一生懸命」を毎日発行。NHKの「おはよう広場」やインターネットテレビに出演。

議員日記は8年4ヶ月、毎日更新し、市民目線の議会報告を毎月発行している。HPIは19万9千アクセスを超える。新座初のツイッター議員であり、mixi、facebookでも発信している。日々教育を考え「観光新座」ではなく「教育新座」「環境新座」を。脱原発「反TPP」ふざけるな消費税増税!」を訴えている。

たかやんの応援団 で 検索

③ 市長選 2

須田市長が出馬(6選すると24年)を決意したと議会の最終日に僕らの目の前で発表しました。「もうい加減にしてくれ!」という人達と須田さんじゃなくっちゃ困るんだ!という人達との戦いが始まります。「新座初の女性市長」なのか、それとも「青年市長」なのか、24年君臨しようとする現職なのか、共産党の候補者なのか、前回178票差で苦渋を舐めた「今度こそ!」の田中幸弘なのか。いずれにしても、今までにないような5人の候補者の戦いになることは間違いありません。投票に行くことは市民のみなさんの義務ではなく権利です。義務教育で子ども達には教育を受ける権利しかないと同じです。投票所入場整理券がゴモにならないように、今度こそ!投票所に足を運んでください。

③ 補正予算

市民と語る会は補正3号に賛成しました。しかし賛成討論の中で問題点も指摘しました。その一つはふるさと新座館の開館イベントの予算が293万2000円と非常に高額なことです。子ども達や市民の命と安全に繋がる「給食用食材放射能検査の委託料」の41万6000円と比べるといかに高額かが分かります。建設費が10億をはるかに超えるふるさと新座館そのものにもずっと一人で反対してきましたが、ほぼ完成した今も黙って賛成する訳にはいきません。複合施設であっても大型箱物であることには変わらないし、その維持費は延々とかかる訳で・開館記念に30万近くもかけるセンスが分かります。特に川越街道からこちら側の住民にとっては大きな違和感があるのです。

③ 首相官邸前デモ

* 昨年4月に南相馬市に支援物資を運んだ時の田中幸弘(左から二人目)です。阪神淡路大震災でも今回の津波、原発の災害でも対応の早さは抜群で、しかも継続的に支援活動を続けています。彼は常に弱い人の味方なんです。反対に強いものの味方なのが、民・自・公の3党。昨日の首相官邸前のデモには10万人以上が参加したのですから、国民の「原発再稼働」に対する怒りは本物です。原発推進派全体に国民はNO!と言ったのです。

③ 意見書

この6月議会、消費税に対する考え方で、新座市議会は真っ二つに分かれました。社会保障は消費税の増税では充実できない。という「語る会」「みんなの党」「共産党」に対して、消費税の増税を進めて行こうという「自民・公明・翠生会」が対立したのです。国会では自・公・民が組んで、消費税を増税しようとしているのですから、市議会がこうなるのも当たり前と言えば、当たり前です。問題は、増税派が一言も語らなかったことです。何も語らずに13対12の多数決で終わらせる市長与党には本当に腹が立ちました。そもそも消費税を上げなくてはいけません。」と主張する人達は収入の多い人が圧倒的に多い。消費税が上がっても、自分たちはちょっと困らないからです。だから、そういう人に応援されている議員も増税賛成となる訳です。一方、「消費税をあげてはいけません」と主張する議員は、収入が十分ではない圧倒的多数の人達や、弱者の立場に立って考えているからそう主張するのです。消費税がいくら上がっても、輸出関連大企業は全く困りません。それどころか、還付金で大儲けします。ところが中小零細企業は大打撃を被る仕組みになっているのです。今の日本は正規雇用が激減しています。これも消費税と関係があります。大金持ちの税は優遇し、貧困層からは雀も取る。大多数の人は収入が減っているのに、大增税。血も涙もない話です。消費税を納めるのは消費者ではなく事業者です。赤字でも収めなくてはいけません消費税。段階的とは言え、5%が10%になったらと思うとぞっとします。市民に年間数十万の負担増になる、大增税。新座市民と市内の事業者の事を考えたら、消費税増税に反対して当然です。市内の事業者がバタバタ倒れてしまわないか心配です。



読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください! m(__)m